

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400313		
法人名	社会福祉法人 比内ふくし会		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	秋田県大館市比内町新館字真館21番地3		
自己評価作成日	令和4年11月18日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所後、無事4年経過する事ができました。コロナ禍により、地域活動等の制限を強いられる中で、今できる事を模索し、事業所が地域の一人として受け入れられる様、地域の清掃活動や法人で取り組んでいる除雪ボランティアへ参加しています。又、開所時から継続している毎月の食事・排泄・入浴委員会、介護事故予防委員会を開催し、一人ひとりのケアを見直しする事で適切な寄り添ったケアが提供できていると実感しています。
敷地内に法人の協力施設があり、非常災害や急変時等のバックアップが整備されている事と、協力医療機関が近隣に整備されている事も入居者の安心と家族様の安心を後押しできる要素と考えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和4年12月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームはなみずきは、「ひない福祉の森」として法人で運営する特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護、グループホームが同一敷地内に設置されたエリアに位置し、それぞれの事業所が相互に連携し、利用者の状況に応じた総合的な支援を行っている。こうした理由から、グループホームの運営には法人として体系化された支援体制が活かされ事業所の強みとなっている。また、各居室には見守り支援システムを導入しており、睡眠状態やバイタルチェック、離床確認がパソコンで確認できるため、事故等を未然に防ぎ利用者・職員の安心とゆとりにつながっている。こうした効果的・効率的な運営の中にも職員一人ひとりの「想い」が十分に支援に反映されており、職員、利用者間の良好なコミュニケーションを土台として、ゆったりと家庭的な雰囲気が伝わって来るホームとなっていた。エリアとして地域の中に溶け込み、地域貢献、ボランティア活動も積極的に進めているため、地域に根差した施設運営が印象的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、更衣室に理念を提示し、職員が常に念頭に置きながら実践として「思いと想い」に満ちた支援ができるよう心掛けている。	法人理念及びホームの理念については、玄関や職員室に掲示するとともに、異動者や新規採用者に対してその内容を丁寧に説明し、また職員会議等を通じて理念の周知を図っている。また、利用者から希望や要望を丁寧に聴きとることから、思い(想い)に満ちた支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に引き続き、コロナ禍の為必要以上の外出や外部との接触を自粛している。ウイズコロナとしてできる事を模索し感染対策を講じながらドライブや馴染みの美容院への外出を行っている。	ひない福祉の森エリアで行う「たんぼ会」などで地域住民との交流を図る取組みを行っていたが、コロナ禍により中止せざるを得ない状況が続いている。そうした中でも、職員が地域の高齢住民を対象に除雪や大掃除、配食弁当などボランティアして回る取組みを法人として実施しており、地域に根差した施設となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	コロナ禍の為、地域交流は自粛しているがHPを通じて、事業所の様子を地域に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年同様、感染対策の為、集合会議を自粛し書面会議として行っている。サービスの取組を資料として各委員へ送付し文書で意見を返答して頂く形で施設運営に反映している。	現在は新型コロナウイルスの影響により、書面開催としている。書面開催については、手順や様式がしっかりと整えられており、委員からの意見を吸い上げ運営に活かすための取組みが行われていることが確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市の職員、地域包括支援センター職員と情報交換を行っている。定期的に生活保護担当職員とも相談を行っている。	市の介護保険係の担当者や生活保護の担当課と情報交換を行っており、制度や行政に関わる情報については都度提供してもらいながら協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会による定期的なカンファレンスを開催し、個々の現状から考えられる身体拘束に結びつく事や虐待に陥りやすい事例を確認している。 又、スタッフ同士が互いを確認し合う事で些細な発見を怠らない様にし通報の義務を念頭に互いが抑止力となるよう努めている。	身体拘束に係る適正化委員会を開催し、どのような行為や状態が虐待や身体拘束に繋がるのかを利用者個々に検討している。またその内容は一覧にして職員に周知するとともに、全員が意見を出し合い都度内容を見直している。仮に睡眠薬や抗精神科薬に増量や変更があった場合についても、その内容について支援者の視点から検討し、ドラッグロックに繋がらないか、減量が可能かどうかについて検討している。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症対応事業所として責務を考えながら、本人らしく生活が送れるよう関係機関との連絡・情報交換を行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、完結に至るまでを懇切丁寧に説明し十分に理解されたうえでの契約となる。法改正や契約内容改定時には説明と共に同意書を交付している。不明な点は都度説明を行っている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し家族の意見を募っている。運営推進会議や面会時等、ご家族から受けた何気ない意見や忌憚のない意見を要望として聞き取り支援へと繋げている。又、苦情の窓口は契約締結時に法人以外3カ所を説明している。	月に一度、広報と共に本人の写真と状況を記載し、近況報告を行っている。また、電話等により定期的に家族と連絡を取り合いながら要望を聞いている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月、各委員会や業務改善委員会を開催し、管理者と職員との意見交換の場となっている。上下関係に配慮しながらも個別に意見が言い合える様、努めている。	業務改善を目的とした委員会があり、事前に出された職員の意見を主任が取りまとめ、委員会で報告し業務の改善に努めている。職場内では職員間のコミュニケーションも良好であり、活発に意見を出し合える環境となっている。また、年に一度個別面談を行い、本人の目標や勤務状況等を聴き取る機会を設け、それぞれの思いの把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他職種との交流や、法人内グループホーム2カ所との定期的な連携をとり互いの現状報告や課題点を探り合い、サービスの向上に努めている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に施設の概要を説明すると共に、要望をご本人、ご家族やケアマネジャー、支援される方から思いを汲み取り安心してホームでの生活が送れるように努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時にご家族からの相談事や要望を聴取し支援内容に反映している。サービス開始後も気軽に相談できる雰囲気や体制を構築している。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のADLを考慮しながら生活歴を基に日常生活の活動(食事の下ごしらえ、洗濯物たたみ、テーブル拭き、モップ掛け等)を個々の日々の役割と位置づけ、職員と共に活動する事で互いに感謝し合い信頼関係を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお便りで近況を報告している。病院受診等や散髪等、コロナ禍の中で可能な限り家族として支援できる場面を提供し施設、家族共に支え合う環境作りを行っている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	入居以前からの行きつけのお店(美容院・床屋)を継続して利用している。コロナ禍以前は墓参りや親戚の集まりに出掛ける機会を調整していた。	比内町の地元の利用者が多いため、入居後も行きつけの美容室等を利用出来るよう取り組んでいる。コロナ禍となる前は敷地内で行う催しものに家族や地域住民が参加するなどして、交流を図っていたため、今後も継続していきたいとのこと。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互いに楽しく談笑できる距離にあり、体操や余暇活動、家事作業等、役割を持ち助け合いながら生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等の契約終了後もご家族からの相談や本人の今後について途切れなく必要なサービスが受けられる様、ケアマネジャーへの情報提供を行いサービス提案を行っている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で得た本人の意向を暮らしの中に活かせる様、心身情報シートを活用し、具体的な支援に落とし込めるよう情報を共有している。	アセスメントとは別に、独自に「心身情報シート」を作成している。本人の何気ない言動から要望や思いを汲み取るために、職員全員が意見を出し合って検討しており、創意工夫ある取組みを行っていた。遺影に毎日水を供えたり、テーブル拭きなどの掃除、農作業に携わっていた利用者の土に対する思いなど、これまでの暮らしや思いを把握し継続できるよう支援している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時のご本人・ご家族からの聴き取りやケアマネジャーからの情報によりご本人のこれまでの生活を理解し、ホームでの生活が在宅の延長として支援できるよう情報共有していく。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	定期的なモニタリングから、心身情報シートを活用し、今できる事、出来ない事、望んでいる事が見える化している。家族来所時に要望を聞き取りし現状に見合った計画となっているかカンファレンスですり合わせを行っている。	心身情報シートでは、本人の要望、家族の要望、支援者の気づきを整理して作成しており、それぞれの意見を基に支援計画の作成に活用出来ている。	介護計画及び具体的な支援内容について職員間で十分に共有され、日々のケアに反映されることにより、より良い支援が実践できるよう期待します。
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	一人一人の心身の状態を確認し、申し送りやケース記録、心身情報シートをを基に情報の共有に努めている。気づきやその日の様子を細かくケース記録として残し周知している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防から地域との交流は自粛しているが、例年は他事業所間の交流や地域の催しに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を持続できるよう、ご本人、ご家族が希望する医療機関を利用している。又、かかりつけ薬局と連携し名前と日付け印刷など服用しやすい工夫やアドバイスが受けられる体制となっている。	利用者のかかりつけ医院を職員付添により支援している。通院時には診療情報提供書を事前に作成し、的確な情報提供に努め、また導入している見守り支援システムから得られる普通の睡眠、血圧等のバイタル状況を合わせて医師に報告する等、効果的に健康管理を行っている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診時に担当看護師へ情報提供書を基に現状を報告している。緊急時には直接、看護師へ指示を仰いでいる。家族対応時にも的確に情報が伝わるよう工夫している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際より、地域連携室退院支援センターと連絡を取り合い退院に向けての情報共有を行っている。退院が長引く際は次のサービスへと繋がる支援も相談している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族へ重症化した際の事業所の方針、取組について説明している。必要時には併設事業所の看護師と連携が取れる体制にある。看取りを行っていないため、急変時は救急搬送となり協力医療機関へ搬送予定となる。	本人の身体状況の変化に応じて、法人として対応できる体制が取られている。グループホームとして対応できることについては、入居時に説明している。状況の変化に応じてケアマネジャー等を通じ、隣接のショートステイや特別養護老人ホームのサービスに繋ぐなど適切な支援に結び付けており、利用者・家族の安心に繋がっている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し必要時に手の届く場所へ保管している。急変時マニュアルの見直しや急変時の救急車要請の手順等確認している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内の特別養護老人ホームと合同避難訓練を行っている。緊急避難場所の確認や持ち出し用品のチェックを定期的に行っている。	以前は米代川沿いに位置していたが、現在の敷地に移転後は主に火災と地震が想定されている。災害対策は「ひない福祉の森」エリア全体として対応手順が検討されており、また、地域住民や地域の消防団との連絡・協力体制も築かれており、災害に備えた体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として入居者への尊敬の念を忘れず、人格を尊重した声かけや対応に努めている。自尊心に配慮した援助や個々のプライバシーに気を付けながら対応している。	研修等を通じて、利用者のプライバシーへの配慮の検討がなされていた。特にトイレ支援の場面、居室への入室場面、本人への声掛けの仕方など、支援場面を想定したプライバシーへの配慮については、職員間で共有されている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の性格や価値観、センスをご家族と相談し画一的な身だしなみではなく、本人らしい姿や本人の望む着こなしができるよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人一人の嗜好品や食事形態に配慮し提供している。季節の食材を取り入れたり、委員会を中心に行事食のメニューを提供している。食事の下ごしらえ等を入居者の日課として職員と一緒に取り組んでいる。	食事提供委員会を設置し、本人の好みや禁忌等を検討し、その結果は一覧にして情報共有している。準備には利用者も一緒に取り組むとともに、食事場面ではトレイや統一した食器等は使用せず、各自思い思いの食器を使用しており、本人に合わせた家庭的な食事風景が印象的であった。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事を心掛けている。食事・水分摂取量を毎日記録し入居者の習慣を考慮しながら味付けや量を調整している。体重の増減が見られた際は、かかりつけ医と相談しながら摂取量を調整している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、習慣として行っている。声掛けや付き添いにて本人に合わせた口腔ケアを行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を確認した上で、声かけや定時誘導を行い排泄のタイミングを検証している。排泄リズムを確認した後は日中をリハビリパンツから布パンツに戻すなど、自立に近づける努力を行っている。	介護技術検討委員会の中で、個々の身体状況に合わせた支援について検討し、職員間で支援内容の情報共有を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操に参加を促し水分を多く摂取できるように促している。食物繊維を多く取り入れた食事や個別に乳製品も摂取している。便秘傾向の入居者はかかりつけ医と連携し下剤調整している。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中を基本としているが、本人の希望を考慮しながら午後に行う事もある。夜間入浴は職員の配置上、対応が困難である旨を伝えている。入浴委員会を中心に、個々の好みの温度、時間を検討し最低週2回以上の支援を行っている。	入浴は、週2回を目安に本人の希望を基に実施している。入浴時の支援内容については、介護技術検討委員会が設置され、本人の好みの温度、入浴時間、洗身状況等細かく検討がなされていた。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに合わせて昼夜問わず自室で自由に休息できるよう空調やリネン交換の環境整備に努めている。又、介護ロボット(眠りスキャン)の活用にて日々の睡眠状態の観察ができています。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量・副作用等、処方される度に薬情と照らし合わせ職員へ周知している。服薬は3重にチェックする体制をとり誤薬防止に努めている。かかりつけ薬局と情報共有し気兼ねなく相談することができている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドやご家族の情報から、ご本人が得意としていた事や興味のある事、仕事歴を参考に手仕事、裁縫、音楽鑑賞等、趣味を楽しめる支援を行っている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・散髪・買い物等本人の希望に沿って個別に対応はできるが、コロナ対策にて一部制限している。例年であればご家族協力の下、生家や墓参りへの外出、外泊を行っている。今年は感染対策を講じ、春、夏、秋季節ごとにマイクロバスでドライブへ出掛けている。	近所を散歩したり、敷地内の家庭菜園の水やりや収穫に出掛けるなど、コロナ禍にあってもできる範囲内で日常で外出する機会を維持している。また、ドライブ外出を積極的に行い、利用者が季節を感じられる支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に小遣いとしてホームで管理しているが、自己管理を希望される方には少額程度を小遣いとは別に管理して頂いている。紛失のリスクについては家族より同意を得ており、本人の希望に沿って対応している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節感を感じられる植物や最低限の飾りを施している。リビングの大きな窓からは外の様子が一望でき季節感を感じられる構造となっている。トイレへ続く廊下や居室からも中庭の家庭菜園を眺める事ができる。	玄関脇と共有ホール奥に大きな窓があり、ゆっくりと外が見られるよう椅子が備え付けられていた。外には大きな山の雪化粧が見られており、季節の風景を楽しむことができる。共有スペースは、季節を感じられる装飾がされているものの、掲示物を極力少なくしてより家庭的で落ち着いた空間を意識している。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは気の合う方同士で過ごせる様にソファや椅子の配置に配慮している。離れた場所に椅子を設置する事で個別に休める居場所づくりにも努めている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具や大切なパートナーの写真等を飾る事により安心して、自宅の延長として過ごして頂けるよう環境を整えている。	居室には各部屋に洗面台が設置され、ベッドも備え付けとなっている。その他備品については各自思い思いの物を持ち込むことが可能であり、その人に合わせた居室となっていた。陰圧装置が備え付けられている居室もあり、感染症発生時に備えた設備も利用者にとって安心材料となっている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLを勘察した上で、食事席の場所やトイレに近い居室の設定等、一人一人にあった動線を確認しながら移動できるよう工夫している。		